

## 佐野常民年譜

西暦	和暦	月日	佐野常民年譜
1822	文政5年	12月28日 (太陽暦1823年2月8日)	佐賀藩川副郷早津江に生まれる。藩士下村充實（しもむらみつよし）の五男、幼名鱗三郎
1832	天保3年		藩医佐野常微（つねみ）の養子となり、名を栄寿とする
1834	天保5年		藩校弘道館の外生となる
1835	天保6年		弘道館内生に進む
1837	天保8年		養父・常微のいる江戸へ旅立つ
1838	天保9年		江戸で古賀侗庵（儒者・開国論者）に入門
1839	天保10年		第9代佐賀藩主鍋島齊直死去（第10代藩主は鍋島直正） 佐賀に帰り、弘道館で漢学を、松尾家塾で外科術を学ぶ
1842	天保13年		佐野家の養女・駒子と結婚（駒子は鍋島藩主剣術師範山領圓左衛門眞武の娘）
1846	弘化3年		藩主鍋島直正の命で侍医牧春堂とともに京都・広瀬元恭の時習堂に入門。蘭学・化学を学ぶ
1848	嘉永元年		大坂・緒方洪庵の適塾に入門
1849	嘉永2年		紀伊（和歌山）で華岡青洲の春林軒塾に入門 江戸で戸塚静海および伊東玄朴（象先堂塾・蘭医シーボルトの高弟）に入門 蘭学・外科術・化学等を修める のち塾頭となり玄朴の代講もつとめた
1851	嘉永4年		藩主の命により長崎へ移り家塾を開く 途中京都で中村奇輔、石黒寛次、田中近江・儀右衛門親子を誘い、佐賀藩に推薦 4人は精煉方に出仕
1853	嘉永6年		藩主の命により佐賀にもどる。名を栄寿左衛門と改め精煉方を統括する
1855	安政2年		長崎海軍伝習所の伝習生となる。精煉方で蒸気船・蒸気車のひな型を作成する
1865	慶応元年	10月	国内初の実用蒸気船凌風丸竣工
1867	慶応3年	3月	パリ万博開催（1867/4/1-10/1、於フランス・パリ） 佐賀藩は、出品のため常民を責任者として派遣（官業視察および軍艦製造用務のため）
1868	明治元年		オランダで軍艦製造を委託し帰国（のち佐賀藩の軍艦日進丸）

## 佐野常民年譜

西暦	和暦	月日	佐野常民年譜
1870	明治3年	3月	明治政府兵部省に出仕。海軍創立を建議 海軍掛となる（兵部卿有栖川宮熾仁親王）
1871	明治4年	5月 8月	工部省に移る。常民と名乗る 工部省大丞兼灯台頭になる
1872	明治5年		博覧会御用掛（2月）、博覧会理事官（5月）を任命 10月に博覧会事務副総裁任命（総裁大隈重信）
1873	明治6年		ウィーン万国博覧会開催（1873/5/1-11/2、於オーストリア・ウィーン） 常民は事務副総裁として参加 派遣員には鳴滝塾のフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト医師の息子、アレキサンダーとハイ ンリッヒ・シーボルト兄弟や常民の息子常實がいた
1874	明治7年	1月 3月	弁理公使としてイタリアに駐在（随行事務官平山成信） ローマ法王と会見
		12月	日本に帰国
1875	明治8年	7月	元老院議官任命（同時任命は有栖川宮熾仁親王、大給恒ら）
		8月	『澳国博覧会報告書』刊行（博物館の重要性を説き、ジュネーブ条約を「近世ノ美事」と記述）
1877	明治10年	4月6日	西南戦争負傷者救護のため博愛社設立を右大臣岩倉具視に請願（常民、大給恒連名）
		5月1日	熊本県にて征討総督有栖川宮熾仁親王に博愛社設立請願書提出、許可を得る（5月3日、征討総督よ り正式に許可）
		6月23日	大給恒より太政官へ社業開始の上申を提出、許可を得る。麹町の桜井忠興邸を博愛社仮事務所と定め る
		8月1日	政府より博愛社が正式に認可される。常民は副総長心得となる
		8月7日	博愛社に宮内省より1000円下賜
		9月13日	東伏見宮嘉彰（小松宮彰仁）親王博愛社総長就任受諾
		12月4日	博愛社仮事務所にて第1回社員総会開催
1878	明治11年	6月17日	社員総会で副総長就任（総長東伏見宮、副総長佐野常民、大給恒、幹事花房義質、櫻井忠興、松平乗 承）
1879	明治12年	3月	龍池会（りゅうちかい、日本美術の伝統の擁護と啓蒙を目的とする美術団体。1887年日本美術協会 と改称）会頭就任

## 佐野常民年譜

西暦	和暦	月日	佐野常民年譜
		10月	内務省設置 中央衛生会会長就任
1880	明治13年	2月	大蔵卿就任
		6月	内国勸業博覧会副総裁就任
		9月	ドイツに留学中の長男常實が死去
1881	明治14年	1月	社員総会で改定博愛社規則発表
		10月	大蔵卿辞任。元老院副議長就任
1882	明治15年	6月26日	社員総会で常民が「博愛社ノ主旨ハ人ノ至性ニ基クノ説」を講義
		9月	元老院議長就任
1883	明治16年		柴田承桂（しょうけい、4月12日付博愛社社員）にジュネーブ条約（赤十字条約）加入手続きの調査を依頼（柴田は、ドイツ・ベルリン開催の衛生および救難法に関する博覧会の視察員となった内務省御用掛）
		5月	大日本私立衛生会（現一般財団法人 日本公衆衛生協会）会頭就任
1884	明治17年		橋本綱常（陸軍軍医監）にジュネーブ条約加入手続きの調査を依頼（橋本は大山巖陸軍卿随員として渡欧）
		12月10日	ジュネーブ条約加入建議書を政府へ提出
1885	明治18年	12月	宮中顧問官任命
1886	明治19年	6月5日	政府がジュネーブ条約加盟調印（公布11月15日）
		11月17日	飯田町に新事務所および博愛社病院（翌年5月より日本赤十字社病院）開設（初代院長橋本綱常）
1887	明治20年	5月	日本赤十字社と改称。初代社長に就任 子爵を授けられる
		6月2日	篤志看護婦人会設立
		5月27日	スイスの赤十字国際委員会・モアニエに国際赤十字への加盟を願う書状を送る

## 佐野常民年譜

西暦	和暦	月日	佐野常民年譜
		9月2日	日本赤十字社が国際赤十字に加盟
		9月	ドイツ開催第4回赤十字国際会議に初めて公式に参加（政府委員：石黒忠恵、日本赤十字社委員：松平乗承、通訳：森林太郎（鷗外）、谷口譲）
		12月	日本美術協会会頭就任
1888	明治21年	4月	枢密顧問官任命
		6月21日	日本赤十字社有功章制定
		7月15日	磐梯山噴火。19日から初の災害救護（皇后の内旨もあり医師3人と医療器材を送る）
1889	明治22年	6月	日本赤十字社看護婦養成規則制定（戦時救護のための看護者養成を明示）
1890	明治23年	4月	看護婦養成開始（日本赤十字社病院にて授業開始）
		9月	トルコ軍艦エルトゥールル号沈没事故で救護員派遣
1891	明治24年	5月	日本赤十字社病院が南豊島御料地内（現渋谷区広尾4丁目）に移転
		10月28日	濃尾地震で災害救護（赤十字養成看護婦初の派遣）
		12月	雑誌「日本赤十字」創刊
1892	明治25年	5月30日	日本赤十字社病院にて初の看護婦生徒卒業証書授与式（赤十字看護婦誕生）
		7月	農商務大臣就任
1894	明治27年	5月8日	麹町区飯田町6丁目1番地（現千代田区飯田橋4丁目）に日本赤十字社事務所が移転
		8月	日清戦争救護開始
1895	明治28年	10月	伯爵を授けられる
1896	明治29年	6月15日	明治三陸地震・津波救護（三陸地方海嘯救護）

## 佐野常民年譜

西暦	和暦	月日	佐野常民年譜
		10月	松平乗承らと九州巡行
1897	明治30年	8月	日本郵船と病院船についての契約を結ぶ
1898	明治31年	8月18日	日本赤十字社看護婦訓戒発布
1899	明治32年	2月10日	スペイン赤十字社名誉大旗を贈呈される。あわせてスペイン赤十字名誉社員に推選される  病院船博愛丸、弘濟丸が竣工
1900	明治33年		義和団事件（北清事変）救護のため患者輸送船派遣（初の看護婦乗船）
1901	明治34年	7月	日本赤十字社本社前庭で常民の等身大銅像除幕式挙行（銅像は第2次世界大戦時、金属類回収令により供出）
		12月2日	日本赤十字社条例公布、社団法人の認可を受ける
1902	明治35年	1月17日	妻・駒子死去
		10月21日	日本赤十字社創立25周年記念式典挙行（於：上野公園） 常民と大給恒は名誉社員に推戴
		12月7日	麹町区三年町（現千代田区永田町1丁目）の自邸で永眠。享年79歳
		12月12日	日本赤十字社社葬

年表は、以下の書籍と日本赤十字社所蔵資料を参考に赤十字情報プラザで作成した。

吉川龍子『日赤の創始者 佐野常民』吉川弘文館、2001年

福岡博『佐賀の幕末維新 八賢伝』出門堂、2005年

日本赤十字社『日本赤十字社史稿』1911年

協力：佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館